

15. 庄内西部地区再開発協議会への「魅力ある学校づくり構想」の説明・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）5 月 20 日（金）19 時～

○場 所：大島センター

質問・意見等	豊中市からの回答
<p><b>5 年後の庄内西小学校の児童数推計は、庄本で何人、大島で何人という内訳も出してほしい。</b></p>	<p>209 人です。地域ごとの内訳につきましては、持ち帰らせていただきます。</p>
<p><b>教育委員会は「魅力ある学校」づくりのワークショップをしてきていたが、当時はわからなかったが、初めから学校再編をやるつもりだったのだろう。昭和 30 年、豊中市と庄内地区が合併した際、豊中市が小学校を 2 校作ることが条件だった。その結果、野田小学校と庄内西小学校ができた。庄内西小学校の敷地面積は当初 10000 m<sup>2</sup>、豊中市の予算が無く狭かったため、当時の PTA が寄付をつのり、地主を説得し、9700 m<sup>2</sup>を購入、豊中市に寄贈した経緯がある。このことをよく知った上で話をしなければいけない。庄内西小学校 10 周年の記念紙をよく読むように。確かに児童数が減少しているが、小規模校には小規模校の良さがあるのではないか。費用対効果の観点で考えるということも大切だろう。校区が広がることで発生する通学路の安全対策を先に示すべきだ。学校再編を急いでいるように感じる。じっくりやらなければいけない。</b></p>	<p>10 周年記念誌は持っていますが、本日持参していません。精読しておきます。通学路の安全については、交通政策や道路整備等を所管する都市基盤部にも参加してもらい、検討を重ねていきたいと考えています。「魅力ある学校」づくりのワークショップでは、地域の方にご参加いただき、めざすべき 15 歳像について一緒に考えさせていただきました。地域のことは、地域の方々が一番よくご存じですので、これからもぜひいろいろと教えてください。この構想案については、拙速に計画を作成しようとしているわけではありません。</p>
<p><b>私は終戦の時、小学生だった。昭和 47 年にサンマテオに行って学校を見学した時、一クラスに 10～20 人しかいなかった。非常に少人数だった。日本は一クラスあたりの人数は、多かったが、今は 40 学級になっている。それでも多いと感じる。</b></p>	<p>新しい学校では、例えば、基礎基本の定着をめざして 1～4 年生は 35 人学級編制とすることも考えられます。通学路の安全については、検討を重ね、ご安心いただけるようにしたいと考えています。時間をかけて、しっかりとご説明していきます。</p>
<p><b>小中一貫教育が良い、と言っているが、小学生が中学生の悪い影響に引っ張られることはないのか。教職員を南部に投入して落ち着かせてほしい。</b></p>	<p>庄内西小学校は今落ち着いています。しかし、小学校を卒業して中学校に入学する際に起きる子どもへの影響は、いわゆる「中一ギャップ」と呼ばれ、課題とされています。学習面では「中一リセット」という言葉もあり、小学校で学んだことをリセットして中学校から新たに学びなおすといったことも起こっています。小中一貫校になることで小学校 1 年生から中学校 3 年生までが系統的な学習がなされ、教職員も関わることでこの課題を解消することができると考えています。中学生は小学生の手本になろうとする意識が高まった、児童生徒の模範意識が高まったなどの成果</p>

	<p>が報告されています。京都市の凌風学園、東山開晴館では、とてもしんどい学校でしたが、小中一貫校になったことで成果が上がっています。</p>
<p>ほんとうに街が変わるのか。すこし前、新千里西町、つまり西丘小学校は児童数が 170 名程だった。しかし今は 500 名程になっている。やはり守る会に今度説明に来る時は、歴史から話をしなければならぬ。通学路の安全対策については新たな資料も必要だろう。ゆっくり一歩一歩やってほしい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
<p>阪急電車の高架化は平成 4、5 年頃にできると言っていたのに進んでいない。山手幹線との接続もできていない。今回の学校再編をすることで、庄内西小学校は跡地になるが道路建設に関わり立ち退きをした人が移るための用地を用意しようとしているのではないのか。このままでは庄本は、小学校が無い、駅も無い、ということで街がますます廃れてしまうのではないか。置き忘れられた地域になってしまう。昔は庄本、洲到止は立派だった。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>